

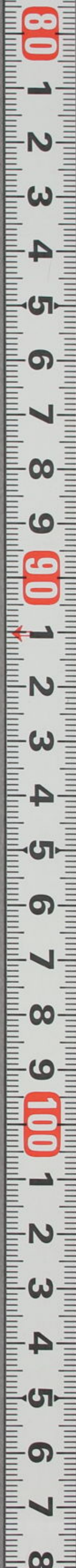


福菴漫筆

壹

隨
6
一

15
348
1



門 1 習 5
第 348
卷 1



東廂子卷

和漢正史引據

橘菴漫筆

恭文書堂梓

明治三十二年十一月五日

坪内相成氏寄贈



東牖子序

彈論習俗辨名萬物其書不為鮮矣
大抵言偽而辨記醜而博奈惑世怪
民何仲尼曰小辨害義小言破道可
不慎與友人田仲宣宿學篤志該通
古今則雖瑣言片辭未嘗欺人於是
輯錄東牖子而擣其弊釐為五卷謁
序於余曰不亦善哉迷復不遠物

之常理世稱立言家者譬諸枕上片
夢東西易嚮不知其非此書一出猶
如日色之照東牖而寢語昏迷頓寤
斯實東牖子哉仲宣含晷而拜遂為
之序云享和改元辛酉之秋

桐江



月叙

昔者臣稚圭之於庸作甯越之於
苦耕猶不能無不幸而役身空乏
而涉世如此其汚也而身穢之何
則此能士之所耻也余常為書肆
奮書以佐資用竊讀彼書有年于
此雖吾之笈見乎所端尺有所短

寸有所長乃隨而筆為斯冊子其
命東牖子者則余平素深筆於東
牖下已嚮太陽升朝露也已而每
朝之思之至焉此每感慨夫物或
失所說或誤真雖滑譽伎術秘受
之事此不無也其與諸藝文者自
未深考說說雷同風俗移人或為

名或為貨英雄欺人耳余夙有感
匡甯之所為餘力以矣後篇東廬
子於盧樞菴終冠蓋辭於卷首云
享和紀元歲次辛酉仲冬

田安有題



文敷

東廬子卷一

田仲宣著

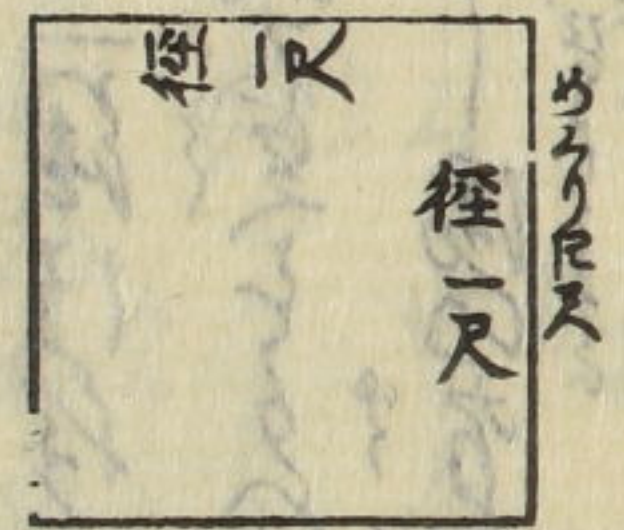
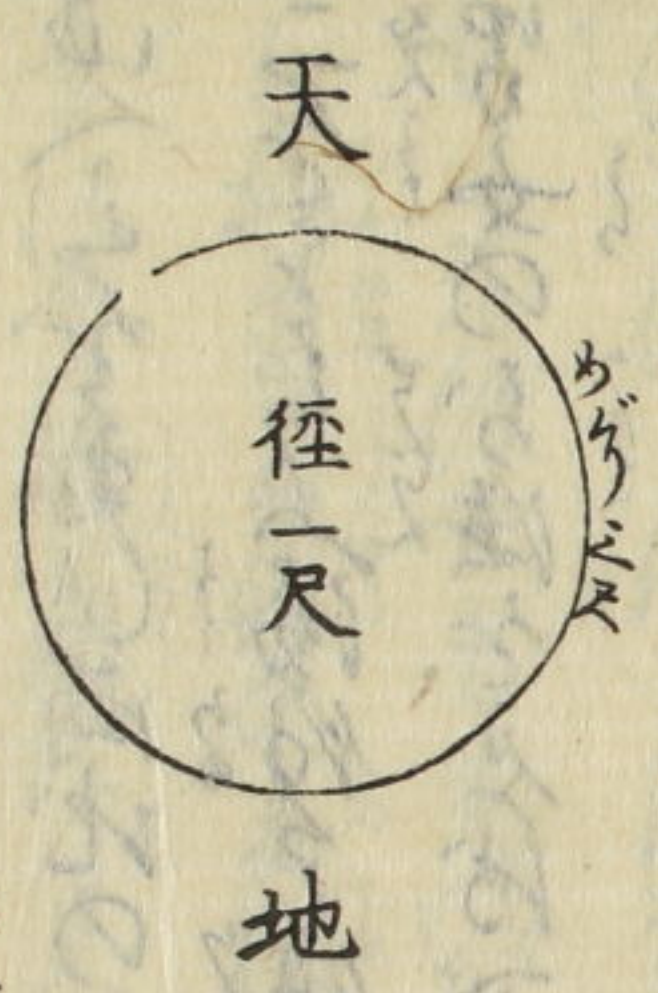


堯風蕩々舜日熙々今來古往
わいて昇平の化は後る氏ハ
のそぞろとありて此と昔
おのこ糸と有徳との徳懐
人をこれと見よ今や竹の
と息と後古の事後古の事
擬古かぶるといふも嗚呼
りや是れいとのいふと

乃一物もいふ一也一筆とほりて篤く質をよ
 して正一各規矩ありて後世に法と成す月小神明法と
 鏡候ハ形を之天西比中象内天の圓を象小鏡と擬（地の方
 かる象小鏡の解と作る諸鏡れ天に比せる物を下に並く
 爰の候れ地よ者せ内をよふ象を並くハ刻地天泰と名次
 故よ正月と泰月と云泰候と云正月と云と天地氣
 交泰して和と睦を睦月と云親睦の睦りの元来天地の
 和れ小倣（正月）下より云くの親睦れれしハ左しつと
 月とのいふと牙二義の鏡り付下地天泰配當ハ左
 一致の圖九のどし



金剛大日印



天の湯に一て介の敷と
 地ハ法にて内の敷と

易一と成て之と函と云す教を越く二を函し偶教各圖
 と以く知内一夫本釣の風俗小更出生して六日月小生爰
 と利これ六日密とて親戚朋友に交候と備ふ此教ハ

法眼周峯寫



道はて作はひ一切莫大なりとて聖徳太子と稱せり
 其の事あるはよき後舎人親王本朝の大綱領たる日本書紀
 と著作し海人傳ら崇道蓋致皇帝と稱号せり其の
 是の神道の考れと以門の天國の法ふして撰述の胡天酒
 の人か徒と評ひの美胡天壤のたぐひから半帝と云

○古伝日記は元日の料より先んがてめを酒とばゆは
 るより一いつて荒海布と年の初食とばと云はれしを
 今を後南都の氏俗元之の食物とありと牛房とを
 記し其の煮くめ牛房と号せり母さこれを設けたり
 昔の送風を梅とばふ海布と云ふの後ふくは事なり

先づつて先と云はれしより一いつて考らるる牛房部の社は和
 布州の神夏と元祭の儀は別ありける是れ近國常立考あり
 いはば目もたふといふも亦たともふも亦たともふも
 ともありと或人の説を云はれ

因ふ今浪花の俗藝送の儀は揚として半小ふいりて
 中ふ列り者ふわとを煮て食せしむりて着た布を
 画食と名ひ考ふいり俗ありり是を元日の食料とありて
 りてこれ物たるは新の画の食物と云ふるをば枯楊
 栞と云ふるの理して死者の法ありん言ふるを
 ○着衣初と云日曆のけりふも亦た年始ふれ服更夜と

大永七年 二月廿六日

慶長七年 三月十二日

寛永廿年 十月廿一日

貞享元年 三月廿八日

明和八年 三月廿八日

その外いり下り大嘗會 入内おどろかす事

投書とらふいぬわ 辰巳文地下氏間を牛と鹿とに

日やわらん

○鬼門とて方と忌と家宅と巫媿の徒ふゆて補理なる

もおろ諸書ふ海にそなたとてそとて思ふ事ありと

寢に世不先系初と大坂より鬼門よりあせり後任暨海渡る

俗間とて方と忌と云程の事と京都の方ふじうして

と内とて一対に俗間小盤と拓んと方を巫媿ゆ水方の徒と

大坂より建系師の醫と死してと求る事極く内下勿海

清古の百般の鏡とふゆ渡りて伝用せ内とのなり

丑寅の角と欠と亦ゆとてはもあてはさるる市中乃

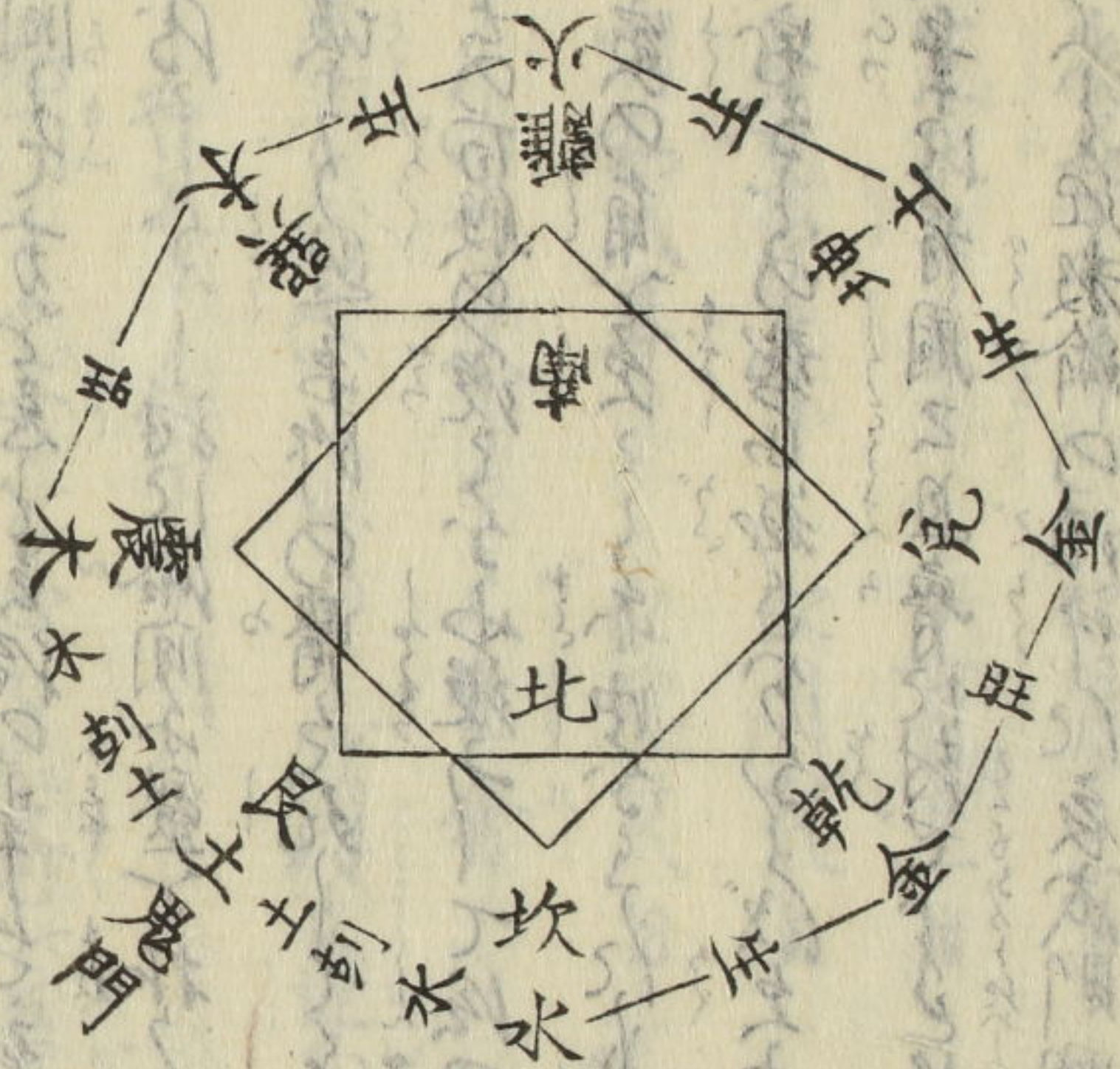
備室とての張山極とつらてはたうて後徐文照と関古

隨筆に首周と且骨に封せとてはひて神子術會と魯に港

路とては教諭の語中に長成則國經屋成則加端と有て是

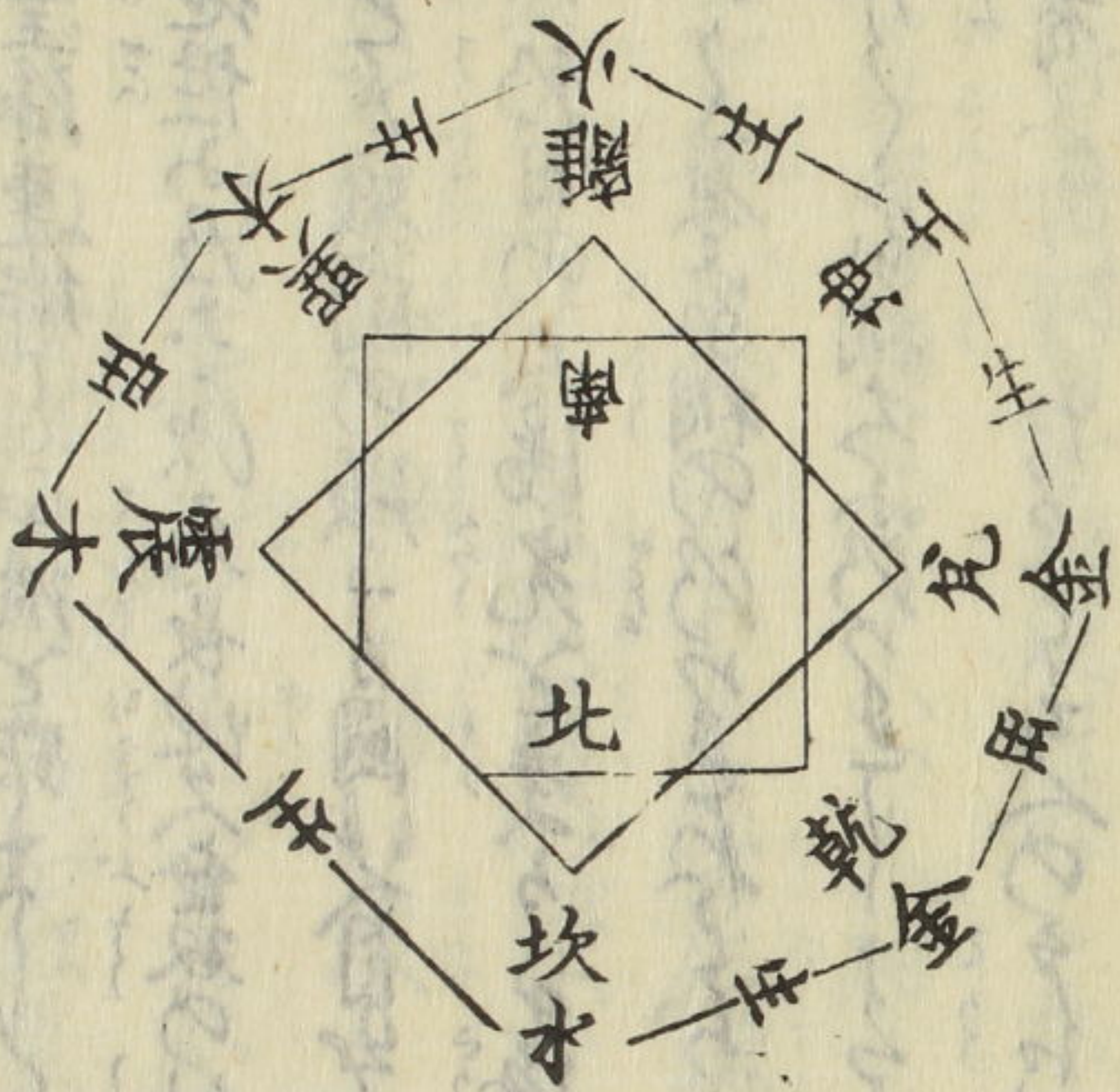
見るとはの家宅と遠るふ十分定とて禁と内は舊なりや

諸君諸君のつた東陽の方良の南と云ふはく理あり



震の卦より
 七卦改穿
 相生旺とれせ
 良れ一卦を後
 則と列とれを
 鬼門とん

右文王後天配當の圖より鬼門の良れとて相生とる圖あり



鬼門を欠てよれといふは理ありといふも亦御長安後事有る
 欠れと及だうとては海を折らんとて鬼門は端とてれを欠て
 竹の蓋り有んを西海の島二方相刻とる南は小波とて

と内半埋^して^り於^て處^らば^は五^つ浪^うる^る俗^{ぞう}流^{りゅう}と^し半^{はん}物^{ぶつ}の^り費^ひ後^ご
 丈^じ洪^{こう}範^{はん}小^{せう}日^{じつ}相^{さう}割^{かく}せ^ばこ^の通^{つう}達^{たつ}せ^ば相^{さう}割^{かく}せ^ばこ^の裁^{さい}割^{かく}ら^う
 して^は文^{ぶん}に^おき^おき^お割^{かく}ふ^る者^{もの}有^ある^るが^らは^はい^りの^り史^し割^{かく}金^{きん}と^れを^こて
 釜^{かま}鼎^{てい}刀^{たう}奴^ぬ金^{きん}浅^{せん}担^{たん}淋^{りん}と^し底^ぞと^し金^{きん}割^{かく}本^{ほん}志^しを^こ未^み報^{ほう}舟^{しゅう}楫^{せき}匱^{けい}函^{わん}
 家^け宅^{たく}と^あら^られ^りお^り割^{かく}して^は民^{みん}用^{よう}を^かり^り利^りと^はり^り
 陳^{ちん}圖^と南^{なん}の^り神^{しん}相^{さう}全^{ぜん}編^{へん}も^この^り金^{きん}割^{かく}史^しと^あり^り割^{かく}用^{よう}を^かり^り
 と^り相^{さう}割^{かく}を^あり^りの^りと^り庸^{よう}考^{こう}の^りと^りの^り

○元^{げん}之^し小^{せう}用^{よう}の^り新^{しん}煮^{しゆ}煮^{しゆ}と^し郊^{きやう}鄙^ひ貴^き姓^{せい}の^り異^い別^{べつ}が^らは^は新^{しん}北^{ぺい}古^こ風^{ふう}
 志^し多^た枝^し湯^{たう}の^り御^おたり^り神^{しん}明^{めい}に^あり^り衆^{しゆ}を^あり^りを^あり^り元^{げん}より
 湯^{たう}と^し物^{ぶつ}と^し有^あり^り湯^{たう}と^し物^{ぶつ}を^あり^り温^{おん}泉^{せん}と^あり^りと^あり^り火^かを^あり^りが^らは^は

た^らん^んの^り食^{じき}湯^{たう}と^し皮^{かわ}流^{りゅう}と^し作^{さく}ら^られ^り小^{せう}せ^り校^{けう}室^{しつ}集^{じつ}の^り喰^く積^{じつ}は^は小^{せう}本^{ほん}
 昆^{こん}菓^かの^り之^し種^{しゆ}と^し有^あり^りて^は海^{かい}田^{てん}の^り物^{ぶつ}を^あり^り集^{じつ}む^るこ^のれ^り天^{てん}地^ちの^り分^{ぶん}と^し才^{さい}
 に^あり^り一^{いつ}を^あり^り國^{こく}と^あり^り例^{れい}年^{ねん}網^{わう}易^いれ^り海^{かい}田^{てん}より^あり^り産^{さん}出^{しゅつ}る^る自^じ然^{ぜん}
 の^り物^{ぶつ}を^あり^り用^{よう}して^は人^{にん}工^{こう}を^あり^り費^ひせ^り物^{ぶつ}を^あり^りら^りひ^りて^は心^{しん}月^{げつ}の^り料^{りょう}と^し易^い
 れ^り種^{しゆ}と^し集^{じつ}む^るこ^のれ^りに^あり^り氏^し俗^{ぞく}一^{いつ}統^{とう}と^し雜^ざ煮^{しゆ}燒^{しやう}豆^{とう}腐^ふ
 と^あり^り半^{はん}心^{しん}を^あり^りの^りか^らも^あり^り豆^{とう}腐^ふと^し咽^{おん}喉^{こう}の^り膈^{かく}と^し連^{れん}次^じと^し
 妙^{めう}の^り能^{のう}あ^りり^りの^り友^{ゆう}條^{じょう}守^{しゅ}か^らん^んと^し咽^{おん}喉^{こう}に^あり^り膈^{かく}と^し連^{れん}次^じと^し
 せ^り一^{いつ}を^あり^りば^は二^に條^{じょう}有^{ゆう}物^{ぶつ}の^り郊^{きやう}鄙^ひも^この^り小^{せう}洞^{どう}の^り易^いれ^りの^りか^らも^あり^り
 う^らか^らら^り使^し用^{よう}して^は可^かあ^らず^んを^あり^り雜^ざ煮^{しゆ}食^{じき}と^し一^{いつ}を^あり^り食^{じき}と^し一^{いつ}を^あり^り食^{じき}と^し一^{いつ}を^あり^り食^{じき}と^し
 ○折^{せつ}海^{かい}の^り札^{せつ}字^じ小^{せう}本^{ほん}篇^{へん}と^し書^{かく}は^は志^し多^た枝^し湯^{たう}と^し物^{ぶつ}と^し書^{かく}は^は小^{せう}本^{ほん}と^し書^{かく}は^は

と或老僧やうしは礼を音教にて夫と云はたりと
ぞ按どばふた傳中と天教と云うは後所傳とある
死と穿不穿繫ふは併清土の文真がふふといふも
誤来りし多しと云て鳥氏筆乘と表と虫と作
虫音也たりと或は船を艇に作る艇音航り
と云へば高と高小作の高音滴之蠶と蚕小作の蚕音
腆之美と美は作る美と音美之无と无小作の无音既
本と奉小作の奉音滴がら半と知へば下も文真がら必
めと誤りし多しと記せり夫清土の人と清土小作れがら
清土の文字とふ暗小讀者がらとと字典字彙字貫が

いして字と云は書則し有くは半多く疑し夫友都らと
字を字と云は一生世業と云は清土者民間小作多しと云や
諸工人商賈農氏かんど文と云ふは書と讀いぬわら
清土の人と云ふ學者の校おれりども世業半しと云や
○諸社諸寺院より半王と云物と云せり夫中納の凡俗生
土の神と云く偈作初生及清土者初發意と云は社系と云
小京都祇園の社と院の子の半しと云治丹と云は史の額に巫
女の老嫗と云と云とあはひは藤氏ゆ来の子孫といふ
身灌れと受て下向と云は祇園の神札と半頭と云は南海
の藤氏ゆ来り家小宿を求給ふと云ははらと云はつ兜魔

と遊て幸と守らんと浮物落とて一をとうや又亦此世去
 子も忌明の社糸に無脂して大の字大の字かどと書
 ろういひ遊も金院の子乃搬換かぶべ一叔院の子とて邪
 崇とをさげ又藤氏の子孫とて疫鬼とて内と懐ひゆ
 かねての生去林より神札も神早と申に書てたを生
 七宝下とて瘡とみかるれ澄とみて邪崇と退くと各
 院の子藤氏の社糸かたかはけりかぶだ一とてうの後
 世深うて生の下れ一書と下の土の字れとた付添くと牛車と
 書一ようといはけり牛車との書深一とあり

釋氏梵書と刻是と下次第下とつづく十面神呪經

の鏡とつとらや二月堂より出物これかぶだ一
 二月堂の牛車と云い世俗より云いり右内院は般經を
 度海の鏡か來の二稱と云いものと佛部菩薩の表書て
 例の方便かど澄とて実がうらぶ
 院の子れ半の相國知雅の一夜分壓りとてせと色
 おくは傳人ども院のまくりて邪崇と法書せしより
 邦くと東堂の口号かたりと中相國ハ法堂の清海観
 了そ紙を女師の所以とん院の子れ下と長と威林院の
 けとよととと附會せばとのを
 戒書か半とと園也園の州書まがりと筆法澄と正解

伯夷叔齊がどいふ蕨餅どより食せし君子もわきど
 爾雅蕨のどどいひのやあはけ中ね延長式み出てり
 ◎花を枝母小法家よりとて完り南枝花初て用くと云
 理の屈りて差(一)唯一理よ善友せらるると古人の糟粕を
 嘗てなふれり徒しからむ見識の域と云ふと一海小梅を
 就中水枝法所より印しく物なり法勢銀が少枝の吟思ひ
 わしどりりか

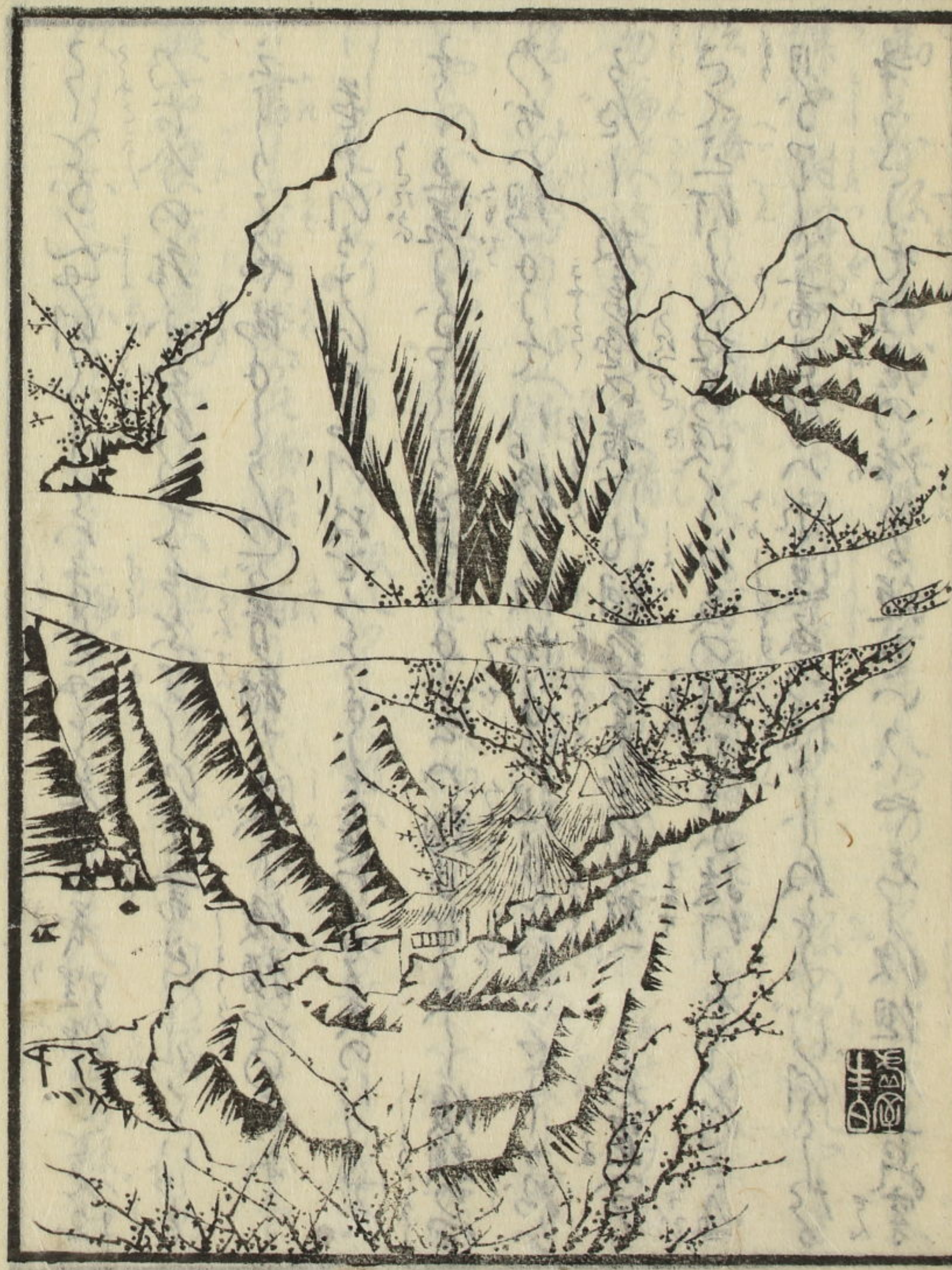
◎浮世を伴定は美笑し假に板家と云べし弁定と豊定皇
 を伴定と云ふし一海せと美笑も一若肉定と 京廓たは
 櫻小美定と云ふと梅ぞと内必竟弁定美定の痴小板家美

ゆきかふと先師原田越後子中ことば是るる入母のあを
 援すわらふり一海金中定と思ふと奉るゆけとあるゆ
 一七世と云ふの事いさしと云

◎浮世大和のころ小尾と月が願長引かどいさると村あり
 一海後ふか梅林をゆ小梅の若師と云ふもすもなぐ一凡
 南の小里東西を里ゆねる梅林と云ふ梅ゆたか一連一
 盛のころと香れ楳都とて滋に海外の佳境ふむがわ
 一好まのたつねと云ふなりと云ふの折ると云ふ香と云は
 頓河の住と一寺と云ふと一

◎花ら一海と云ふり咲れ紅葉と真と云ふり思ふと冷暖を道

壬戌伏日製
九鸞



有る物を今幸に涯おれたに恵を無沙の租税と莫大に寛
 小志短の万民徳澤に後と農夫を以て附由て發と結
 農暇は言結とく古来未曾有の事なりもなり言ふと
 網也くて草の習とく此暑ゆ管の小笠と着て耕耨突
 にもお豊饒いさなりさし網也草の價借致内りても年
 毎に費ゆりて穀を食ふ及下り夫先田を耕者水の慮り
 湯田を耕者旱の愁ありはるは小金を鳴呼者
 子の富たつ半と知り波卷まの民に政と分ち候とれ定を
 ばよだ

東廬子卷一終

橋

有^レ物^ヲ今^ニ來^ルに^ハ涯^ハた^レ仁^ノ惠^ヲを^モ忘^ルル^ハ租^ノ税^ト莫^ク大^ニ定^ム
 夫^レ忘^ルル^ハ仁^ノ惠^ヲを^モ忘^ルル^ハ租^ノ税^ト莫^ク大^ニ定^ム
 農^ノ收^ノは^モ古^ノ未^ダ嘗^テ有^ルの^事も^ナり^もな^らず^ニも^ナり^もな^らず^ニ
 網^ノ也^トて^モ草^ノの^皆と^シて^モ暑^ノ者^ノ也^ト管^ノの^小差^と有^テ耕^ノ耨^ノ実^ヲ
 に^モ亦^モ豊^饒の^事と^シて^モり^もな^らず^ニも^ナり^もな^らず^ニも^ナり^もな^らず^ニ
 毎^ニ費^セり^もし^テ穀^ノ子^ノ金^ノ亦^レ及^ズ下^ノ夫^レ荒^田を^耕者^ハ水^ノの^慮の^り
 湯^田を^耕者^ハ旱^ノの^愁の^にも^なり^もな^らず^ニも^ナり^もな^らず^ニ
 子^ノ富^者の^半と^シて^モ知^ラず^ニも^ナり^もな^らず^ニも^ナり^もな^らず^ニ
 子^ノ富^者の^半と^シて^モ知^ラず^ニも^ナり^もな^らず^ニも^ナり^もな^らず^ニ

東陽子卷一終

橋店清書

